

必修科目群  
選択科目a群  
自由科目群



教科 No.	6a001	授業科目	オーケストラ1～8	単位数	各2単位																
担当教員	増井信貴, 秋山和慶(非常勤), 上中朝美(非常勤)			開講学期	前期・後期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	弦楽専攻及び管・打楽専攻1～4回生																	
<p><b>【授業目標】</b> 弦・管・打楽器による組織的で大規模な合奏を通じて、オーケストラにおける音の響きや音色の多彩な変化、またはブレス、ボーイング、リズムの作り方や音楽の表現法、演奏効果などを学ぶことを目標とする。</p> <p><b>【授業概要】</b> 管弦楽作品数曲を授業課題とし、合奏または弦楽器と管・打楽器によるパート合奏を行う。また授業に必要な楽譜の製作やセッティング、リセッティングなどを学生自ら行うことにより、プロのオーケストラの自覚と責任を持つことを学ぶ。→備考に続く。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション：1年間の授業の説明など</td> <td>9. 課題の合奏</td> </tr> <tr> <td>2. 課題の合奏</td> <td>10. "</td> </tr> <tr> <td>3. "</td> <td>11. 特別練習</td> </tr> <tr> <td>4. 課題のパート合奏</td> <td>12. "</td> </tr> <tr> <td>5. 課題の合奏</td> <td>13. (合唱合せ又はコンチェルト, ソロ合せなど)</td> </tr> <tr> <td>6. "</td> <td>14. "</td> </tr> <tr> <td>7. コンチェルトの合奏(又は合唱合せなど)</td> <td>15. 演奏会本番</td> </tr> <tr> <td>8. 課題のパート合奏</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 平常点として評価するが、授業への取組み態度などは大変重要な要素である。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 欠席は認めない。やむを得ない理由の時も「欠席・早退・遅刻届」を必ず事前に提出のこと。</p> <p><b>【教科書】</b> 各セクションの係が製作する。</p> <p><b>【参考書等】</b> 授業課題のスコア・CDなど</p> <p>※備考 月・金曜日：16時20分～18時30分、金曜日は不定期に院オペラの練習のため19時45分まで オリエンテーション4月11日(月)16時20分～ ※全員必ず出席すること。 この授業は音楽研究科の「合奏演習(管弦楽)」「合奏演習(オペラ)」との合同授業である。</p>						1. オリエンテーション：1年間の授業の説明など	9. 課題の合奏	2. 課題の合奏	10. "	3. "	11. 特別練習	4. 課題のパート合奏	12. "	5. 課題の合奏	13. (合唱合せ又はコンチェルト, ソロ合せなど)	6. "	14. "	7. コンチェルトの合奏(又は合唱合せなど)	15. 演奏会本番	8. 課題のパート合奏	
1. オリエンテーション：1年間の授業の説明など	9. 課題の合奏																				
2. 課題の合奏	10. "																				
3. "	11. 特別練習																				
4. 課題のパート合奏	12. "																				
5. 課題の合奏	13. (合唱合せ又はコンチェルト, ソロ合せなど)																				
6. "	14. "																				
7. コンチェルトの合奏(又は合唱合せなど)	15. 演奏会本番																				
8. 課題のパート合奏																					

教科 No.	6a002	授業科目	弦楽合奏1～8	単位数	各1単位
担当教員	弦楽専攻専任教員及び非常勤講師			開講学期	前期・後期
履修条件	なし		履修学年・専攻等	弦楽専攻1～4回生	
<p><b>【授業目標】</b> バロック、古典から現代までの弦楽合奏のレパートリーを用いて、合奏の基礎を学ぶ。</p> <p><b>【授業概要】</b> 上記の課題で合奏技術の基礎を学ぶとともに、オーケストラの授業と連携し、必要に応じてオーケストラ定期演奏会の前には弦楽パートの分奏なども行う。</p> <p><b>【評価方法】</b> 出席状況により評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 積極的に授業に参加する。</p> <p><b>【教科書】</b> なし</p> <p><b>【参考書等】</b> なし</p>					

教科 No.	6a003	授業科目	管・打楽合奏1～8	単位数	各1単位
担当教員	管・打楽専攻専任教員および非常勤講師			開講学期	前期・後期
履修条件	なし		履修学年・専攻等	管・打楽専攻1～4回生	
<p><b>【授業目標】</b> 合奏実技レッスンによってアンサンブル能力を身につけるとともに、必要な知識を習得する。各学年の目標は備考参照</p> <p><b>【授業概要】</b> 木管楽器、金管楽器、打楽器に別れたうえで小グループによるチームを組み、それぞれの教員から各チームごとに合奏実技レッスンを受ける。学内外での様々なコンサートに出演する。レッスン内容、スケジュールは、年度初めにチームを編成し、担当教員と相談の上で決定するので必ず出席のこと。</p> <p><b>【評価方法】</b> 平常点および出演したコンサートの内容による。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> レッスンに向けて事前の個人練習、合奏練習が非常に大切である。</p> <p><b>【教科書】</b> 担当教員と相談の上、各チームの進捗と適性を考慮し決定。</p> <p><b>【参考書等】</b> 担当教員と相談の上、各チームの進捗と適性を考慮し決定。</p> <p>※備考 1 回生：アンサンブルの基本として縦と横の線を意識することを学び、基礎的な技術と知識を習得 2 回生：一定の秩序の中での積極的な音楽表現を身につけ、基礎的な技術と知識を確立 3 回生：他者を尊重しながらの自由な表現力と適切な自己主張能力を身につけ、高度な演奏技術と知識を習得 4 回生：全体のバランスを配慮しつつリーダーシップを発揮する能力を身につけ、高度な演奏技術と知識を確立</p>					

教科 No.	6a004	授業科目	合唱1～8	単位数	各1単位																
担当教員	石原祐介（非常勤）、北村敏則、青木恵子（非常勤）			開講学期	前期・後期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1回生以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 実践を通じ、声および声楽アンサンブルの特性を知る。</p> <p><b>【授業概要】</b> 合唱音楽を通じ、声および声楽アンサンブルについて理解を深める。また、指導ができるための最低限の知識を持つ。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr><td>1. オリエンテーション、発声練習、課題曲の練習</td><td>9. "</td></tr> <tr><td>2. 発声練習、課題曲の練習</td><td>10. "</td></tr> <tr><td>3. "</td><td>11. "</td></tr> <tr><td>4. "</td><td>12. "</td></tr> <tr><td>5. "</td><td>13. "</td></tr> <tr><td>6. "</td><td>14. "</td></tr> <tr><td>7. "</td><td>15. "</td></tr> <tr><td>8. "</td><td></td></tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> ①出席率（80%以上） ②指定する演奏会への出演 ③実技試験</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 音楽を学ぶ場ですから、専攻に関わらず真摯な授業態度を希望します。</p> <p><b>【教科書】</b> 資料を配布。もしくは授業の中で指示します。</p> <p><b>【参考書等】</b> 授業の中で指示をします。</p> <p>「もし、合唱もしくは声楽アンサンブルを指導することになったら」という事を想定して様々な知識を吸収してもらいたいと思っています。</p> <p>指定する演奏会の日程は第1回目の授業の時に発表する予定です。</p>						1. オリエンテーション、発声練習、課題曲の練習	9. "	2. 発声練習、課題曲の練習	10. "	3. "	11. "	4. "	12. "	5. "	13. "	6. "	14. "	7. "	15. "	8. "	
1. オリエンテーション、発声練習、課題曲の練習	9. "																				
2. 発声練習、課題曲の練習	10. "																				
3. "	11. "																				
4. "	12. "																				
5. "	13. "																				
6. "	14. "																				
7. "	15. "																				
8. "																					

教科 No.	6a005	授業科目	重唱1：色々な声楽アンサンブル	単位数	1単位																
担当教員	上野洋子, 青木恵子 (非常勤)			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	声楽専攻3回生																	
<p><b>【授業目標】</b> さまざまな重唱曲を通してアンサンブルの重要性と楽しみを知る。</p> <p><b>【授業概要】</b> ソリストを目指す上でも総合芸術においてアンサンブルの練習は必要不可欠である。重唱曲を通して協調性を養う。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr><td>1. オリエンテーション</td><td>9. "</td></tr> <tr><td>2. 基礎練習</td><td>10. "</td></tr> <tr><td>3. "</td><td>11. "</td></tr> <tr><td>4. "</td><td>12. "</td></tr> <tr><td>5. "</td><td>13. 試演会リハーサル</td></tr> <tr><td>6. "</td><td>14. "</td></tr> <tr><td>7. アンサンブル練習</td><td>15. 試演会</td></tr> <tr><td>8. "</td><td></td></tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 授業への取り組み態度 (特に積極性と音楽を通じた協調性を評価)</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 演奏会やオペラなど、舞台上で演奏するにあたって必ず人と共に作り上げていく過程を経る、ということを経験を通して体験する機会となしてほしい。</p> <p><b>【教科書】</b> 適宜選択</p> <p><b>【参考書等】</b> なし</p>						1. オリエンテーション	9. "	2. 基礎練習	10. "	3. "	11. "	4. "	12. "	5. "	13. 試演会リハーサル	6. "	14. "	7. アンサンブル練習	15. 試演会	8. "	
1. オリエンテーション	9. "																				
2. 基礎練習	10. "																				
3. "	11. "																				
4. "	12. "																				
5. "	13. 試演会リハーサル																				
6. "	14. "																				
7. アンサンブル練習	15. 試演会																				
8. "																					

教科 No.	6a006	授業科目	重唱2：オペラにおける声楽アンサンブル	単位数	1単位																
担当教員	上野洋子, 平岡秀幸 (非常勤), 青木恵子 (非常勤)			開講学期	後期																
履修条件	重唱1を履修済み		履修学年・専攻等	声楽専攻3回生																	
<p><b>【授業目標】</b> 人と共に作り上げる音楽の楽しみを学び、オペラを通して実際に舞台上でさらに大きく表現する訓練。</p> <p><b>【授業概要】</b> 前期で学んだアンサンブルの実践と訓練、そしてその表現追究。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr><td>1. 基礎練習1</td><td>9. "</td></tr> <tr><td>2. "</td><td>10. 立ち稽古 (さらに高い完成度を求めて)</td></tr> <tr><td>3. "</td><td>11. "</td></tr> <tr><td>4. 音楽練習 (台本の理解, 役の研究, 舞台状況の把握)</td><td>12. "</td></tr> <tr><td>5. "</td><td>13. 試演会リハーサル</td></tr> <tr><td>6. "</td><td>14. "</td></tr> <tr><td>7. 立ち稽古</td><td>15. 試演会</td></tr> <tr><td>8. "</td><td></td></tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 授業への取り組み態度 (特に積極性と音楽を通じた協調性を評価)</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 協調性を要するオペラの中でソリストとして、且つアンサンブルメンバーとして、深く大きく自由に表現することを目指す。</p> <p><b>【教科書】</b> 適宜選択</p> <p><b>【参考書等】</b> なし</p>						1. 基礎練習1	9. "	2. "	10. 立ち稽古 (さらに高い完成度を求めて)	3. "	11. "	4. 音楽練習 (台本の理解, 役の研究, 舞台状況の把握)	12. "	5. "	13. 試演会リハーサル	6. "	14. "	7. 立ち稽古	15. 試演会	8. "	
1. 基礎練習1	9. "																				
2. "	10. 立ち稽古 (さらに高い完成度を求めて)																				
3. "	11. "																				
4. 音楽練習 (台本の理解, 役の研究, 舞台状況の把握)	12. "																				
5. "	13. 試演会リハーサル																				
6. "	14. "																				
7. 立ち稽古	15. 試演会																				
8. "																					

教科 No.	6a007	授業科目	重唱 3		単位数	1単位																
担当教員	折江忠道, 日紫喜恵美, 松本重孝 (非常勤), 青木恵子 (非常勤)				開講学期	前期																
履修条件	先修科目: 重唱 1・2		履修学年・専攻等	声楽専攻 4 回生																		
<p><b>【授業目標】</b> オペラにおける音楽表現と身体表現。</p> <p><b>【授業概要】</b> 当該年に合わせたオペラ作品を取り上げ、アンサンブルを中心に歌唱法等を学ぶ。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr><td>1. オペラアリア披露, ガイダンス</td><td>9. "</td></tr> <tr><td>2. オペラ重唱を使った授業</td><td>10. "</td></tr> <tr><td>3. "</td><td>11. "</td></tr> <tr><td>4. "</td><td>12. "</td></tr> <tr><td>5. "</td><td>13. "</td></tr> <tr><td>6. "</td><td>14. "</td></tr> <tr><td>7. "</td><td>15. "</td></tr> <tr><td>8. "</td><td></td></tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 平常の授業態度及び出欠。必要に応じ発表会を催す可能性有。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 授業への積極的参加と対応。</p> <p><b>【教科書】</b> 必要なヴォーカルスコアを授業中に指示</p> <p><b>【参考書等】</b> なし</p> <p>※備考 他の科目との関連性: 「オペラ実習 3」</p>							1. オペラアリア披露, ガイダンス	9. "	2. オペラ重唱を使った授業	10. "	3. "	11. "	4. "	12. "	5. "	13. "	6. "	14. "	7. "	15. "	8. "	
1. オペラアリア披露, ガイダンス	9. "																					
2. オペラ重唱を使った授業	10. "																					
3. "	11. "																					
4. "	12. "																					
5. "	13. "																					
6. "	14. "																					
7. "	15. "																					
8. "																						

教科 No.	6a008	授業科目	重唱 4		単位数	1単位																
担当教員	折江忠道, 日紫喜恵美, 松本重孝 (非常勤), 青木恵子 (非常勤)				開講学期	後期																
履修条件	先修科目: 重唱 1～3		履修学年・専攻等	声楽専攻 4 回生																		
<p><b>【授業目標】</b> オペラにおける音楽表現と身体表現。</p> <p><b>【授業概要】</b> 重唱 3 に引き続き当該年の学生に適したオペラ作品を取り上げ実践を通して発声, 歌唱法等を学ぶ。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr><td>1. オペラ作品を使った授業</td><td>9. "</td></tr> <tr><td>2. "</td><td>10. "</td></tr> <tr><td>3. "</td><td>11. "</td></tr> <tr><td>4. "</td><td>12. "</td></tr> <tr><td>5. "</td><td>13. "</td></tr> <tr><td>6. "</td><td>14. "</td></tr> <tr><td>7. "</td><td>15. "</td></tr> <tr><td>8. "</td><td></td></tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 平常の授業態度及び出欠。期末に行う講堂での演奏による。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 授業への積極的参加と対応。</p> <p><b>【教科書】</b> 必要なヴォーカルスコアを授業中に指示</p> <p><b>【参考書等】</b> なし</p> <p>※備考 他の科目との関連性: 「オペラ実習 4」</p>							1. オペラ作品を使った授業	9. "	2. "	10. "	3. "	11. "	4. "	12. "	5. "	13. "	6. "	14. "	7. "	15. "	8. "	
1. オペラ作品を使った授業	9. "																					
2. "	10. "																					
3. "	11. "																					
4. "	12. "																					
5. "	13. "																					
6. "	14. "																					
7. "	15. "																					
8. "																						

教科 No.	6a009	授業科目	オペラ実習1：ドラマはどこから生まれるのか	単位数	1単位																
担当教員	平岡秀幸（非常勤）			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	声楽専攻3回生																	
<p><b>【授業目標】</b> 「身体性」と「関係性」を演技の基礎として自覚し、今後に生かせるようにする。</p> <p><b>【授業概要】</b> 様々なエクササイズを使い、「関係性」からドラマが生まれることを学び、「関係性」を作るための表現的な「身体」を作る訓練をする。また、シーンスタディーで、それを実践する。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. レクチャー・演技について</td> <td style="width: 50%;">9. シーンスタディー・エクササイズをシーン作りに生かす。</td> </tr> <tr> <td>2. エクササイズ・演技者の身体</td> <td>10. "</td> </tr> <tr> <td>3. "</td> <td>11. "</td> </tr> <tr> <td>4. "</td> <td>12. "</td> </tr> <tr> <td>5. "</td> <td>13. "</td> </tr> <tr> <td>6. "</td> <td>14. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. "</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. "</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席状況並びに授業への取り組み（集中度・積極性）</p> <p><b>【履修上の注意】</b> トレーニングウェア等、運動のできる服装で参加すること。</p> <p><b>【教科書】</b> なし</p> <p><b>【参考書等】</b> なし</p> <p>※備考 「舞台に立つ」ということの基礎です。学生自身が他の科目、特に「歌う」ということとの関連性を自覚して、生かしてもらいたい。</p>						1. レクチャー・演技について	9. シーンスタディー・エクササイズをシーン作りに生かす。	2. エクササイズ・演技者の身体	10. "	3. "	11. "	4. "	12. "	5. "	13. "	6. "	14. まとめ	7. "	15. まとめ	8. "	
1. レクチャー・演技について	9. シーンスタディー・エクササイズをシーン作りに生かす。																				
2. エクササイズ・演技者の身体	10. "																				
3. "	11. "																				
4. "	12. "																				
5. "	13. "																				
6. "	14. まとめ																				
7. "	15. まとめ																				
8. "																					

教科 No.	6a010	授業科目	オペラ実習2：試演会	単位数	1単位																
担当教員	上野洋子，平岡秀幸（非常勤），青木恵子（非常勤）			開講学期	後期																
履修条件	先修科目：オペラ実習1		履修学年・専攻等	声楽専攻3回生																	
<p><b>【授業目標】</b> 前期で学習したことを、オペラの演技に生かす。歌と動作が表現として一致すること、相手との関係によって自分の行為を生み出すことを目標とする。</p> <p><b>【授業概要】</b> 前期に引き続き、演技者の「身体」と「関係性」について探っていくが、「重唱2」との合同授業とし、オペラ作品のいくつかのシーンに取り組み、試演会を行う。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 台本読み（台本を読み、役や内容をつかむ）※音楽練習と並行して行う</td> <td style="width: 50%;">9. "</td> </tr> <tr> <td>2. "</td> <td>10. "</td> </tr> <tr> <td>3. "</td> <td>11. "</td> </tr> <tr> <td>4. 粗立ち稽古 ※音楽練習と並行して行う</td> <td>12. "</td> </tr> <tr> <td>5. "</td> <td>13. "</td> </tr> <tr> <td>6. "</td> <td>14. 試演会</td> </tr> <tr> <td>7. 立ち稽古</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. "</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 練習への取り組み。（集中度・積極性）</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 与えられた役について、役柄や動きなど、積極的に自分で工夫する。</p> <p><b>【教科書】</b> なし</p> <p><b>【参考書等】</b> なし</p>						1. 台本読み（台本を読み、役や内容をつかむ）※音楽練習と並行して行う	9. "	2. "	10. "	3. "	11. "	4. 粗立ち稽古 ※音楽練習と並行して行う	12. "	5. "	13. "	6. "	14. 試演会	7. 立ち稽古	15. まとめ	8. "	
1. 台本読み（台本を読み、役や内容をつかむ）※音楽練習と並行して行う	9. "																				
2. "	10. "																				
3. "	11. "																				
4. 粗立ち稽古 ※音楽練習と並行して行う	12. "																				
5. "	13. "																				
6. "	14. 試演会																				
7. 立ち稽古	15. まとめ																				
8. "																					

教科 No.	6a011	授業科目	オペラ実習 3		単位数	1単位																
担当教員	折江忠道, 日紫喜恵美, 松本重孝 (非常勤), 青木恵子 (非常勤), 乃村健一 (非常勤)			開講学期	前期																	
履修条件	先修科目: オペラ実習 1・2		履修学年・専攻等	声楽専攻 4 回生																		
<p>【授業目標】 オペラにおける音楽表現と身体表現。</p> <p>【授業概要】 オペラ作品を取り上げ, レチタティーヴォとアリアの関連性及びアンサンブルによる舞台総合表現の基礎を習得する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr><td>1. オペラ作品を使い歌唱と身体表現の密着した総合的表現方法を実践により学ぶ</td><td>9. "</td></tr> <tr><td>2. "</td><td>10. "</td></tr> <tr><td>3. "</td><td>11. "</td></tr> <tr><td>4. "</td><td>12. "</td></tr> <tr><td>5. "</td><td>13. "</td></tr> <tr><td>6. "</td><td>14. "</td></tr> <tr><td>7. "</td><td>15. "</td></tr> <tr><td>8. "</td><td></td></tr> </table> <p>【評価方法】 授業への積極的参加とその対応。平常の授業態度と出欠。必要に応じ発表会を催す可能性有り。</p> <p>【履修上の注意】 授業への積極的参加とその対応。</p> <p>【教科書】 必要なオペラヴォーカルスコアを授業中に指示</p> <p>【参考書等】 なし</p> <p>※備考 他の科目との関連性: 「重唱 3」</p>							1. オペラ作品を使い歌唱と身体表現の密着した総合的表現方法を実践により学ぶ	9. "	2. "	10. "	3. "	11. "	4. "	12. "	5. "	13. "	6. "	14. "	7. "	15. "	8. "	
1. オペラ作品を使い歌唱と身体表現の密着した総合的表現方法を実践により学ぶ	9. "																					
2. "	10. "																					
3. "	11. "																					
4. "	12. "																					
5. "	13. "																					
6. "	14. "																					
7. "	15. "																					
8. "																						

教科 No.	6a012	授業科目	オペラ実習 4		単位数	1単位																
担当教員	折江忠道, 日紫喜恵美, 松本重孝 (非常勤), 青木恵子 (非常勤), 乃村健一 (非常勤)			開講学期	後期																	
履修条件	先修科目: オペラ実習 1～3		履修学年・専攻等	声楽専攻 4 回生																		
<p>【授業目標】 オペラにおける音楽表現と身体表現。</p> <p>【授業概要】 オペラ実習 3 で習得した表現方法をさらに発展させ, より深く, 緻密な表現へと可能せしめるべく学び研究する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr><td>1. オペラ作品を使い歌唱と身体表現の密着した総合的舞台表現方法を実践。</td><td>9. "</td></tr> <tr><td>2. "</td><td>10. "</td></tr> <tr><td>3. "</td><td>11. "</td></tr> <tr><td>4. "</td><td>12. "</td></tr> <tr><td>5. "</td><td>13. "</td></tr> <tr><td>6. "</td><td>14. "</td></tr> <tr><td>7. "</td><td>15. "</td></tr> <tr><td>8. "</td><td></td></tr> </table> <p>【評価方法】 平常の授業態度と出欠。期末に行う講堂での演奏による。</p> <p>【履修上の注意】 授業への積極的参加とその対応。</p> <p>【教科書】 必要なオペラヴォーカルスコアを授業中に指示</p> <p>【参考書等】 なし</p> <p>※備考 他の科目との関連性: 「重唱 4」</p>							1. オペラ作品を使い歌唱と身体表現の密着した総合的舞台表現方法を実践。	9. "	2. "	10. "	3. "	11. "	4. "	12. "	5. "	13. "	6. "	14. "	7. "	15. "	8. "	
1. オペラ作品を使い歌唱と身体表現の密着した総合的舞台表現方法を実践。	9. "																					
2. "	10. "																					
3. "	11. "																					
4. "	12. "																					
5. "	13. "																					
6. "	14. "																					
7. "	15. "																					
8. "																						

教科 No.	6a013	授業科目	ディクシヨナ 1：イタリア語の発声法を学ぶ	単位数	1単位																
担当教員	Mauro De Paolis マウロ デ・パオリス（非常勤）			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	声楽専攻 1 回生																	
<p>【授業目標】 自信を持って正しい発音で言葉、気持ち、ブレスをバランスよく歌えるように。</p> <p>【授業概要】 アクセント、イントネーション、読み方、アルファベットから曲のセリフまで、正しいイタリア語の発声ができる様に授業を行いたいと思います。</p> <p>【授業内容】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1.アクセントの基本</td> <td style="width: 50%;">9. "</td> </tr> <tr> <td>2. "</td> <td>10.その後、「アリア・アンティカ 1」</td> </tr> <tr> <td>3. "</td> <td>11.「アリア・アンティカ 2」</td> </tr> <tr> <td>4.イントネーションの基本</td> <td>12.その他</td> </tr> <tr> <td>5. "</td> <td>13. "</td> </tr> <tr> <td>6. "</td> <td>14. "</td> </tr> <tr> <td>7.アリアの正しい読み方の基本</td> <td>15. "</td> </tr> <tr> <td>8. "</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 授業への出席と全体の授業を見ながら評価する。</p> <p>【履修上の注意】 積極的に授業に参加する。</p> <p>【教科書】 特に指定しない。</p> <p>【参考書等】 「アリア・アンティカ 1」「アリア・アンティカ 2」</p> <p>※備考 音楽の授業で扱われている曲との関係を持ちたい。「イタリア語 1」を同時に履修することが望ましい。</p>						1.アクセントの基本	9. "	2. "	10.その後、「アリア・アンティカ 1」	3. "	11.「アリア・アンティカ 2」	4.イントネーションの基本	12.その他	5. "	13. "	6. "	14. "	7.アリアの正しい読み方の基本	15. "	8. "	
1.アクセントの基本	9. "																				
2. "	10.その後、「アリア・アンティカ 1」																				
3. "	11.「アリア・アンティカ 2」																				
4.イントネーションの基本	12.その他																				
5. "	13. "																				
6. "	14. "																				
7.アリアの正しい読み方の基本	15. "																				
8. "																					

教科 No.	6a014	授業科目	ディクシヨナ 2：イタリア語の発声法を学ぶ	単位数	1単位																
担当教員	Mauro De Paolis マウロ デ・パオリス（非常勤）			開講学期	後期																
履修条件	先修科目：ディクシヨナ 1		履修学年・専攻等	声楽専攻 1 回生																	
<p>【授業目標】 自信を持って正しい発音で言葉、気持ち、ブレスをバランスよく歌えるように。</p> <p>【授業概要】 アクセント、イントネーション、読み方、アルファベットから曲のセリフまで、正しいイタリア語の発声ができる様に授業を行いたいと思います。</p> <p>【授業内容】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1.前期に引き続き「アリア・アンティカ 1」,「アリア・アンティカ 2」その他</td> <td style="width: 50%;">9. "</td> </tr> <tr> <td>2. "</td> <td>10. "</td> </tr> <tr> <td>3. "</td> <td>11. "</td> </tr> <tr> <td>4. "</td> <td>12. "</td> </tr> <tr> <td>5. "</td> <td>13. "</td> </tr> <tr> <td>6. "</td> <td>14. "</td> </tr> <tr> <td>7. "</td> <td>15. "</td> </tr> <tr> <td>8. "</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 授業への出席と全体の授業を見ながら評価する。</p> <p>【履修上の注意】 積極的に授業に参加する。</p> <p>【教科書】 特に指定しない。</p> <p>【参考書等】 「アリア・アンティカ 1」「アリア・アンティカ 2」</p> <p>※備考 音楽の授業で扱われている曲との関係を持ちたい。「イタリア語 2」を同時に履修することが望ましい。</p>						1.前期に引き続き「アリア・アンティカ 1」,「アリア・アンティカ 2」その他	9. "	2. "	10. "	3. "	11. "	4. "	12. "	5. "	13. "	6. "	14. "	7. "	15. "	8. "	
1.前期に引き続き「アリア・アンティカ 1」,「アリア・アンティカ 2」その他	9. "																				
2. "	10. "																				
3. "	11. "																				
4. "	12. "																				
5. "	13. "																				
6. "	14. "																				
7. "	15. "																				
8. "																					

教科 No.	6a015	授業科目	ディクシオンb 1 歌手のためのドイツ語発音	単位数	1単位																
担当教員	上野洋子（音楽棟210）			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	声楽専攻2回生																	
<p><b>【授業目標】</b> ドイツ語の基本発音の習得</p> <p><b>【授業概要】</b> 正しいドイツ語発音と、その発音を歌唱に当てはめた場合の注意点やテクニックに重点をおく。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 母音 a</td> <td style="width: 50%;">9. 子音 f,v,w,ph,pf</td> </tr> <tr> <td>2. 母音 i, o, u</td> <td>10. 子音 j,sch,sp,st,ttsch</td> </tr> <tr> <td>3. 母音 e</td> <td>11. 子音 ch</td> </tr> <tr> <td>4. 二重母音</td> <td>12. 特に母音を意識した歌唱のための発音テクニック</td> </tr> <tr> <td>5. ウムラウト</td> <td>13. 特に子音を意識した歌唱のための発音テクニック</td> </tr> <tr> <td>6. 子音 b,p,d,t,l,r</td> <td>14. 詩を使った基礎発音の総合練習</td> </tr> <tr> <td>7. 子音 s,ß,z,m,n</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 子音 g,k,qu,h,ng,nk</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 授業態度（特に発音に対する積極性と集中力を評価）と出席回数</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 本授業はドイツ語能力を問うものではないが、ごく簡単なドイツ語文法、初歩会話の知識があることが望ましい。</p> <p><b>【教科書】</b> 高折 績著「歌唱のためのドイツ語発音法」（音楽之友社）</p> <p><b>【参考書等】</b> 発音記号のついた独和辞典</p>						1. 母音 a	9. 子音 f,v,w,ph,pf	2. 母音 i, o, u	10. 子音 j,sch,sp,st,ttsch	3. 母音 e	11. 子音 ch	4. 二重母音	12. 特に母音を意識した歌唱のための発音テクニック	5. ウムラウト	13. 特に子音を意識した歌唱のための発音テクニック	6. 子音 b,p,d,t,l,r	14. 詩を使った基礎発音の総合練習	7. 子音 s,ß,z,m,n	15. まとめ	8. 子音 g,k,qu,h,ng,nk	
1. 母音 a	9. 子音 f,v,w,ph,pf																				
2. 母音 i, o, u	10. 子音 j,sch,sp,st,ttsch																				
3. 母音 e	11. 子音 ch																				
4. 二重母音	12. 特に母音を意識した歌唱のための発音テクニック																				
5. ウムラウト	13. 特に子音を意識した歌唱のための発音テクニック																				
6. 子音 b,p,d,t,l,r	14. 詩を使った基礎発音の総合練習																				
7. 子音 s,ß,z,m,n	15. まとめ																				
8. 子音 g,k,qu,h,ng,nk																					

教科 No.	6a016	授業科目	ディクシオンb 2 歌手のためのドイツ語発音	単位数	1単位																
担当教員	上野洋子（音楽棟210）			開講学期	後期																
履修条件	先修科目：ディクシオンb 1		履修学年・専攻等	声楽専攻2回生																	
<p><b>【授業目標】</b> 習得した正しいドイツ語発音をさらに歌唱にのせる発音テクニックを目指した練習。</p> <p><b>【授業概要】</b> ドイツ語の声楽曲を歌うにあたって、インターナショナルに通用する発音の習得を目標とする。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 前期の復習</td> <td style="width: 50%;">9. "</td> </tr> <tr> <td>2. アリアを使ったドイツ語発音練習</td> <td>10. 各自1曲を選び試演会に向けて集中練習</td> </tr> <tr> <td>3. "</td> <td>11. "</td> </tr> <tr> <td>4. 宗教曲を使ったドイツ語発音練習</td> <td>12. "</td> </tr> <tr> <td>5. "</td> <td>13. "</td> </tr> <tr> <td>6. 歌曲を使ったドイツ語発音練習</td> <td>14. "</td> </tr> <tr> <td>7. "</td> <td>15. 試演会</td> </tr> <tr> <td>8. "</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> テスト（試演会）、授業態度（特に発音に対する積極性と集中力を評価）と出席回数</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 本授業はドイツ語能力を問うものではないが、耳と舌の感覚をより深めるためにごく簡単なドイツ語を実際に会話に取り入れながら授業を進める。</p> <p><b>【教科書】</b> 高折 績著「歌唱のためのドイツ語発音法」（音楽之友社）</p> <p><b>【参考書等】</b> 発音記号のついた独和辞典</p>						1. 前期の復習	9. "	2. アリアを使ったドイツ語発音練習	10. 各自1曲を選び試演会に向けて集中練習	3. "	11. "	4. 宗教曲を使ったドイツ語発音練習	12. "	5. "	13. "	6. 歌曲を使ったドイツ語発音練習	14. "	7. "	15. 試演会	8. "	
1. 前期の復習	9. "																				
2. アリアを使ったドイツ語発音練習	10. 各自1曲を選び試演会に向けて集中練習																				
3. "	11. "																				
4. 宗教曲を使ったドイツ語発音練習	12. "																				
5. "	13. "																				
6. 歌曲を使ったドイツ語発音練習	14. "																				
7. "	15. 試演会																				
8. "																					

教科 No.	6a017	授業科目	ディクシオンc 1	単位数	1単位																
担当教員	福田清美（非常勤）			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	声楽専攻3回生																	
<p><b>【授業目標】</b> 会話と演唱（舞台語発音）の違いを知る</p> <p><b>【授業概要】</b> フランス語（発音記号使用）の発音練習。下記の教科書の中から選曲，演奏。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 母音，子音，鼻母音，広い母音～狭い母音，これらとつづり字</td> <td style="width: 50%;">9. 全員指導（同じ曲をグループで指導）</td> </tr> <tr> <td>2. "</td> <td>10. "</td> </tr> <tr> <td>3. "</td> <td>11. "</td> </tr> <tr> <td>4. "</td> <td>12. "</td> </tr> <tr> <td>5. "</td> <td>13. ソロ演奏（模擬試験）</td> </tr> <tr> <td>6. 教科書から選曲</td> <td>14. "</td> </tr> <tr> <td>7. 中間テスト（個人の発音を確かめる）</td> <td>15. ソロ演奏（試験）</td> </tr> <tr> <td>8. "</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 1 曲をピアノ伴奏で演奏</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 発音記号と実際の発音の結び付け</p> <p><b>【教科書】</b> 「フランス歌曲集」（ドレミ楽譜出版社）</p> <p><b>【参考書等】</b> 仏語辞書（発音記号付き）</p> <p>※備考 2 回生までに「フランス語 1，2」の履修しておくことが望ましい。</p>						1. 母音，子音，鼻母音，広い母音～狭い母音，これらとつづり字	9. 全員指導（同じ曲をグループで指導）	2. "	10. "	3. "	11. "	4. "	12. "	5. "	13. ソロ演奏（模擬試験）	6. 教科書から選曲	14. "	7. 中間テスト（個人の発音を確かめる）	15. ソロ演奏（試験）	8. "	
1. 母音，子音，鼻母音，広い母音～狭い母音，これらとつづり字	9. 全員指導（同じ曲をグループで指導）																				
2. "	10. "																				
3. "	11. "																				
4. "	12. "																				
5. "	13. ソロ演奏（模擬試験）																				
6. 教科書から選曲	14. "																				
7. 中間テスト（個人の発音を確かめる）	15. ソロ演奏（試験）																				
8. "																					

教科 No.	6a018	授業科目	ディクシオンc 2	単位数	1単位																
担当教員	福田清美（非常勤）			開講学期	後期																
履修条件	先修科目：ディクシオンc 1		履修学年・専攻等	声楽専攻3回生																	
<p><b>【授業目標】</b> 会話と演唱（舞台語発音）の違いを知る</p> <p><b>【授業概要】</b> アンシェヌモン，リエゾン，アクセント，イントネーションに注意しながら朗読練習。教科書と有名フランス歌曲から選曲・演奏。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. アンシェヌモン，リエゾン，アクセント，イントネーションを教科書等から選曲して説明</td> <td style="width: 50%;">9. "</td> </tr> <tr> <td>2. "</td> <td>10. 全員指導（同じ曲をグループで指導）</td> </tr> <tr> <td>3. "</td> <td>11. "</td> </tr> <tr> <td>4. "</td> <td>12. "</td> </tr> <tr> <td>5. "</td> <td>13. ソロ演奏（模擬試験）</td> </tr> <tr> <td>6. "</td> <td>14. "</td> </tr> <tr> <td>7. "</td> <td>15. ソロ演奏（試験）</td> </tr> <tr> <td>8. "</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 1 曲をピアノ伴奏で演奏</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 特に禁止のリエゾンに注意</p> <p><b>【教科書】</b> 「フランス歌曲集」（ドレミ楽譜出版社）</p> <p><b>【参考書等】</b> 仏語辞書（発音記号付き）</p>						1. アンシェヌモン，リエゾン，アクセント，イントネーションを教科書等から選曲して説明	9. "	2. "	10. 全員指導（同じ曲をグループで指導）	3. "	11. "	4. "	12. "	5. "	13. ソロ演奏（模擬試験）	6. "	14. "	7. "	15. ソロ演奏（試験）	8. "	
1. アンシェヌモン，リエゾン，アクセント，イントネーションを教科書等から選曲して説明	9. "																				
2. "	10. 全員指導（同じ曲をグループで指導）																				
3. "	11. "																				
4. "	12. "																				
5. "	13. ソロ演奏（模擬試験）																				
6. "	14. "																				
7. "	15. ソロ演奏（試験）																				
8. "																					

教科 No.	6a019	授業科目	ディクシオン d 1	単位数	1単位																
担当教員	北村敏則（音楽棟208）			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	声乐専攻4回生																	
<p><b>【授業目標】</b> ドイツリートをはじめ、各国には芸術性高い歌が存在するように我々の財産であり誇りである日本歌曲を通じ、豊かな感性を育てる。</p> <p><b>【授業概要】</b> 明瞭で美しい日本語の発音の修得につとめ、曲の内容に即した演奏を探る。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>1. ガイダンス</td><td style="text-align: right;">9. "</td></tr> <tr><td>2. 楽曲の解釈と演奏法の研究を行う</td><td style="text-align: right;">10. "</td></tr> <tr><td>3. "</td><td style="text-align: right;">11. "</td></tr> <tr><td>4. "</td><td style="text-align: right;">12. "</td></tr> <tr><td>5. "</td><td style="text-align: right;">13. "</td></tr> <tr><td>6. "</td><td style="text-align: right;">14. "</td></tr> <tr><td>7. "</td><td style="text-align: right;">15. "</td></tr> <tr><td>8. "</td><td></td></tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席回数と平常点により評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 詩と曲の両面から楽曲の分析を行うこと。</p> <p><b>【教科書】</b> 課題となる楽曲の楽譜を各自用意すること。</p> <p><b>【参考書等】</b> なし</p>						1. ガイダンス	9. "	2. 楽曲の解釈と演奏法の研究を行う	10. "	3. "	11. "	4. "	12. "	5. "	13. "	6. "	14. "	7. "	15. "	8. "	
1. ガイダンス	9. "																				
2. 楽曲の解釈と演奏法の研究を行う	10. "																				
3. "	11. "																				
4. "	12. "																				
5. "	13. "																				
6. "	14. "																				
7. "	15. "																				
8. "																					

教科 No.	6a020	授業科目	ディクシオン d 2	単位数	1単位																
担当教員	北村敏則（音楽棟208）			開講学期	後期																
履修条件	先修科目：ディクシオン d 1		履修学年・専攻等	声乐専攻4回生																	
<p><b>【授業目標】</b> ドイツリートをはじめ、各国には芸術性高い歌が存在するように我々の財産であり誇りである日本歌曲を通じ、豊かな感性を育てる。</p> <p><b>【授業概要】</b> 明瞭で美しい日本語の発音の修得につとめ、曲の内容に即した演奏を探る。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>1. ガイダンス</td><td style="text-align: right;">9. "</td></tr> <tr><td>2. 楽曲の解釈と演奏法の研究を行う</td><td style="text-align: right;">10. "</td></tr> <tr><td>3. "</td><td style="text-align: right;">11. "</td></tr> <tr><td>4. "</td><td style="text-align: right;">12. "</td></tr> <tr><td>5. "</td><td style="text-align: right;">13. "</td></tr> <tr><td>6. "</td><td style="text-align: right;">14. "</td></tr> <tr><td>7. "</td><td style="text-align: right;">15. 演奏会</td></tr> <tr><td>8. "</td><td></td></tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席回数と平常点により評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 詩と曲の両面から楽曲の分析を行うこと。</p> <p><b>【教科書】</b> 課題となる楽曲の楽譜を各自用意すること。</p> <p><b>【参考書等】</b> なし</p>						1. ガイダンス	9. "	2. 楽曲の解釈と演奏法の研究を行う	10. "	3. "	11. "	4. "	12. "	5. "	13. "	6. "	14. "	7. "	15. 演奏会	8. "	
1. ガイダンス	9. "																				
2. 楽曲の解釈と演奏法の研究を行う	10. "																				
3. "	11. "																				
4. "	12. "																				
5. "	13. "																				
6. "	14. "																				
7. "	15. 演奏会																				
8. "																					

教科 No.	6a021	授業科目	ソルフェージュ 1, 3		単位数	1単位																
担当教員	岡田加津子, 前田則子 (非常勤), 植松さやか (非常勤)				開講学期	前期																
履修条件	先修科目: ソルフェージュ 3 は 1・2		履修学年・専攻等	1, 2 年生																		
【授業目標】 聴音, 視唱などソルフェージュの練習を通して音楽の基礎訓練を行い, 能力を向上させる。																						
【授業概要】 グレード別によるクラスでの演習形式で, 聴音 (単旋律, 複旋律, 四声体和声), 視唱 (高音部譜表, 低音部譜表, ハ音記号) の練習を行う。その他リズム唱 (奏), 移調唱 (奏), ピアノ以外の楽器による聴音なども行う。試験により, a～f のクラスを決定し, f クラスは導入教育とする。																						
【授業内容】																						
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 聴音 1, 視唱 1, その他 1</td> <td style="width: 50%;">9. 聴音 9, 視唱 9, その他 9</td> </tr> <tr> <td>2. 聴音 2, 視唱 2, その他 2</td> <td>10. 聴音 10, 視唱 10, その他 10</td> </tr> <tr> <td>3. 聴音 3, 視唱 3, その他 3</td> <td>11. 聴音 11, 視唱 11, その他 11</td> </tr> <tr> <td>4. 聴音 4, 視唱 4, その他 4</td> <td>12. 聴音 12, 視唱 12, その他 12</td> </tr> <tr> <td>5. 聴音 5, 視唱 5, その他 5</td> <td>13. 聴音 13, 視唱 13, その他 13</td> </tr> <tr> <td>6. 聴音 6, 視唱 6, その他 6</td> <td>14. 聴音 14, 視唱 14, その他 14</td> </tr> <tr> <td>7. 聴音 7, 視唱 7, その他 7</td> <td>15. 聴音試験</td> </tr> <tr> <td>8. 聴音 8, 視唱 8, その他 8</td> <td></td> </tr> </table>							1. 聴音 1, 視唱 1, その他 1	9. 聴音 9, 視唱 9, その他 9	2. 聴音 2, 視唱 2, その他 2	10. 聴音 10, 視唱 10, その他 10	3. 聴音 3, 視唱 3, その他 3	11. 聴音 11, 視唱 11, その他 11	4. 聴音 4, 視唱 4, その他 4	12. 聴音 12, 視唱 12, その他 12	5. 聴音 5, 視唱 5, その他 5	13. 聴音 13, 視唱 13, その他 13	6. 聴音 6, 視唱 6, その他 6	14. 聴音 14, 視唱 14, その他 14	7. 聴音 7, 視唱 7, その他 7	15. 聴音試験	8. 聴音 8, 視唱 8, その他 8	
1. 聴音 1, 視唱 1, その他 1	9. 聴音 9, 視唱 9, その他 9																					
2. 聴音 2, 視唱 2, その他 2	10. 聴音 10, 視唱 10, その他 10																					
3. 聴音 3, 視唱 3, その他 3	11. 聴音 11, 視唱 11, その他 11																					
4. 聴音 4, 視唱 4, その他 4	12. 聴音 12, 視唱 12, その他 12																					
5. 聴音 5, 視唱 5, その他 5	13. 聴音 13, 視唱 13, その他 13																					
6. 聴音 6, 視唱 6, その他 6	14. 聴音 14, 視唱 14, その他 14																					
7. 聴音 7, 視唱 7, その他 7	15. 聴音試験																					
8. 聴音 8, 視唱 8, その他 8																						
【評価方法】 単旋律, 複旋律, 四声体の聴取, ハ音記号譜の初見視唱試験, 及び平常点により評価する。																						
【履修上の注意】 授業に欠席 3 回以上した場合は, 定期試験の受験にかかわらず, 正当な理由が認められない限り, 単位不認定となるので注意すること。																						
【教科書】 各クラスごとに指定																						
【参考書等】 渡辺高之助監修 木村和子・長 恭子共著「Solfège des 7clés ハ音記号による新曲 視唱」(Kmp 出版) 平田あゆみ, 木下阿由見, ほか共著「ハ音スタディ～1 2 のトレーニング」(カワイ出版)  ※備考 他の科目との関連性: 「和声法」																						

教科 No.	6a022	授業科目	ソルフェージュ 2, 4		単位数	1単位																
担当教員	岡田加津子, 前田則子 (非常勤), 植松さやか (非常勤)				開講学期	後期																
履修条件	先修科目: ソルフェージュ 2 は 1, 4 は 1～3		履修学年・専攻等	1, 2 年生																		
【授業目標】 聴音, 視唱などソルフェージュの練習を通して音楽の基礎訓練を行い, 能力を向上させる。																						
【授業概要】 それまでに培われたソルフェージュの基礎能力をもとに, より複雑で広範な教材を取り入れ, 音楽を迅速かつ正確に把握するための総合的なトレーニングに取り組む。又スコアリーディングにより近づくための音部記号の読みかえや鍵盤和声, 及び和声法の理論も導入しつつ, 音楽に対する洞察力を深め, 演奏表現に結びつく内容に重点を置く。グレード試験により, a～f のクラスを決定し, f クラスは導入教育とする。																						
【授業内容】																						
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 聴音 1, 視唱 1, その他 1</td> <td style="width: 50%;">9. 聴音 9, 視唱 9, その他 9</td> </tr> <tr> <td>2. 聴音 2, 視唱 2, その他 2</td> <td>10. 聴音 10, 視唱 10, その他 10</td> </tr> <tr> <td>3. 聴音 3, 視唱 3, その他 3</td> <td>11. 聴音 11, 視唱 11, その他 11</td> </tr> <tr> <td>4. 聴音 4, 視唱 4, その他 4</td> <td>12. 聴音 12, 視唱 12, その他 12</td> </tr> <tr> <td>5. 聴音 5, 視唱 5, その他 5</td> <td>13. 聴音 13, 視唱 13, その他 13</td> </tr> <tr> <td>6. 聴音 6, 視唱 6, その他 6</td> <td>14. 聴音 14, 視唱 14, その他 14</td> </tr> <tr> <td>7. 聴音 7, 視唱 7, その他 7</td> <td>15. 聴音試験</td> </tr> <tr> <td>8. 聴音 8, 視唱 8, その他 8</td> <td></td> </tr> </table>							1. 聴音 1, 視唱 1, その他 1	9. 聴音 9, 視唱 9, その他 9	2. 聴音 2, 視唱 2, その他 2	10. 聴音 10, 視唱 10, その他 10	3. 聴音 3, 視唱 3, その他 3	11. 聴音 11, 視唱 11, その他 11	4. 聴音 4, 視唱 4, その他 4	12. 聴音 12, 視唱 12, その他 12	5. 聴音 5, 視唱 5, その他 5	13. 聴音 13, 視唱 13, その他 13	6. 聴音 6, 視唱 6, その他 6	14. 聴音 14, 視唱 14, その他 14	7. 聴音 7, 視唱 7, その他 7	15. 聴音試験	8. 聴音 8, 視唱 8, その他 8	
1. 聴音 1, 視唱 1, その他 1	9. 聴音 9, 視唱 9, その他 9																					
2. 聴音 2, 視唱 2, その他 2	10. 聴音 10, 視唱 10, その他 10																					
3. 聴音 3, 視唱 3, その他 3	11. 聴音 11, 視唱 11, その他 11																					
4. 聴音 4, 視唱 4, その他 4	12. 聴音 12, 視唱 12, その他 12																					
5. 聴音 5, 視唱 5, その他 5	13. 聴音 13, 視唱 13, その他 13																					
6. 聴音 6, 視唱 6, その他 6	14. 聴音 14, 視唱 14, その他 14																					
7. 聴音 7, 視唱 7, その他 7	15. 聴音試験																					
8. 聴音 8, 視唱 8, その他 8																						
【評価方法】 単旋律, 複旋律, 四声体の聴取, 混合譜の初見視唱試験, 及び平常点により評価する。																						
【履修上の注意】 授業に欠席 3 回以上した場合は, 定期試験の受験にかかわらず, 正当な理由が認められない限り, 単位不認定となるので注意すること。																						
【教科書】 各クラスごとに指定																						
【参考書等】 なし  ※備考 他の科目との関連性: 「楽曲分析」, 「和声法」, 「対位法」																						

教科 No.	6a023	授業科目	音楽美学1：グローバル化時代の音楽学・音楽美学	単位数	2単位																
担当教員	龍村あや子（音楽研究室2）			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1 回生																	
<p><b>【授業目標】</b> 音楽を専門とする人間にとって必要不可欠な美学上の基礎知識を学び、音楽についての真摯な思索の態度を深め、自信の音楽観を形成するための基盤を得る。</p> <p><b>【授業概要】</b> グローバル化の時代に相応じる音楽観を形成するために、まず既存の＜音楽＞観を打ち破り、日本を含むアジアや他の世界の様々な音と人間の関わり合いに目を開かせる。次に西洋の古代ギリシャから近代までの音楽思想の概要を学び、最後にグローバル化の現代の音楽状況を考える。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. &lt;音楽&gt;とは何かーアフリカのリズム、日本の音文化などから考える。</td> <td>9. 西洋中世～バロックの音楽観</td> </tr> <tr> <td>2. 音と音楽の多様性ー世界はいろいろな音楽であふれている。</td> <td>10. 楽譜とはなにか？</td> </tr> <tr> <td>3. 古代ギリシャの音楽観</td> <td>11. バロック音楽の時代</td> </tr> <tr> <td>4. ギリシャ悲劇とその西洋の音楽文化への影響</td> <td>12. 古典主義とロマン主義</td> </tr> <tr> <td>5. 信仰と音楽ーキリスト教</td> <td>13. 音楽作品とその解釈</td> </tr> <tr> <td>6. 信仰と音楽ーイスラム教</td> <td>14. 現代の音楽状況と音楽美学</td> </tr> <tr> <td>7. 日本の音文化と信仰</td> <td>15. 予備</td> </tr> <tr> <td>8. アジアの古典芸術音楽1 インド</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 期末レポートと日ごろの授業態度による。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 様々な音楽を体験することが重要なので、出席を重視する</p> <p><b>【教科書】</b> なし</p> <p><b>【参考書等】</b> C・ダールハウス『音楽美学』、龍村あや子「比較文明学の仮題としての＜音楽＞あるいは＜音文化＞」（『文明間の対話に向けて』世界思想社・所収）</p> <p>※備考 2回生以上で音楽美学2に続く</p>						1. <音楽>とは何かーアフリカのリズム、日本の音文化などから考える。	9. 西洋中世～バロックの音楽観	2. 音と音楽の多様性ー世界はいろいろな音楽であふれている。	10. 楽譜とはなにか？	3. 古代ギリシャの音楽観	11. バロック音楽の時代	4. ギリシャ悲劇とその西洋の音楽文化への影響	12. 古典主義とロマン主義	5. 信仰と音楽ーキリスト教	13. 音楽作品とその解釈	6. 信仰と音楽ーイスラム教	14. 現代の音楽状況と音楽美学	7. 日本の音文化と信仰	15. 予備	8. アジアの古典芸術音楽1 インド	
1. <音楽>とは何かーアフリカのリズム、日本の音文化などから考える。	9. 西洋中世～バロックの音楽観																				
2. 音と音楽の多様性ー世界はいろいろな音楽であふれている。	10. 楽譜とはなにか？																				
3. 古代ギリシャの音楽観	11. バロック音楽の時代																				
4. ギリシャ悲劇とその西洋の音楽文化への影響	12. 古典主義とロマン主義																				
5. 信仰と音楽ーキリスト教	13. 音楽作品とその解釈																				
6. 信仰と音楽ーイスラム教	14. 現代の音楽状況と音楽美学																				
7. 日本の音文化と信仰	15. 予備																				
8. アジアの古典芸術音楽1 インド																					

教科 No.	6a024	授業科目	音楽美学2：19世紀の音楽と音楽思想ー交響曲を中心に	単位数	2単位																
担当教員	龍村あや子（音楽研究室2）			開講学期	前期																
履修条件	先修科目：音楽美学1（聴講については先修科目なし）		履修学年・専攻等	2回生以上（音楽学専攻1回生以上）★備考必読																	
<p><b>【授業目標】</b> 19世紀ロマン主義の時代・社会における音楽のあり方と思想、特に交響曲の表現と形式の理解を深める。</p> <p><b>【授業概要】</b> 19世紀ロマン主義において音楽はどのように捉えられ、発展したか。交響曲の理念・内容・形式とその変遷を追いながら考える。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 古典派とロマン派はひとつの大きな時代である。では何が歴史的に変化したのか。</td> <td>9. サンサーンスはなぜ交響曲にオルガンを取り入れたのか。</td> </tr> <tr> <td>2. ロマン主義思想の始まりー文学上の初期ロマン派とその音楽思想</td> <td>10. プラームスはなぜロマン派の中の古典主義といわれるのか。</td> </tr> <tr> <td>3. シューベルトの口短調交響曲第一章は何を表現しようとしているのか</td> <td>11. チャイコフスキーの交響曲第6番の中心はどこにあるのか。</td> </tr> <tr> <td>4. シューベルト、シューマン、メンデルスゾーンは交響曲をどのように捉えたか。</td> <td>12. 19世紀交響曲における「メロディーの力」</td> </tr> <tr> <td>5. ベルリオーズの《幻想》とその影響</td> <td>13. 19世紀交響曲の楽章構成と「スケルツォ」</td> </tr> <tr> <td>6. ロマン主義思想の歴史の変遷をめぐって</td> <td>14. マーラーの交響曲ーロマン主義最後の表現</td> </tr> <tr> <td>7. 交響曲における民族主義ー北欧、東欧の諸作品</td> <td>15. マーラーの交響曲第9番</td> </tr> <tr> <td>8. ワーグナーのバイロイト楽劇の全ヨーロッパへの影響</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 学期末に提出するレポートと、普段の履修態度、出席を考慮して評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 出席を重視する。</p> <p><b>【教科書】</b> 特に指定しない。</p> <p><b>【参考書等】</b> 授業中に紹介する。</p> <p>いわゆる「名曲解説講座」ではなく、専門的な知識を深めるための授業である。</p> <p>★聴講を希望する音楽学専攻以外の1回生は担当教員の許可を得ること。</p>						1. 古典派とロマン派はひとつの大きな時代である。では何が歴史的に変化したのか。	9. サンサーンスはなぜ交響曲にオルガンを取り入れたのか。	2. ロマン主義思想の始まりー文学上の初期ロマン派とその音楽思想	10. プラームスはなぜロマン派の中の古典主義といわれるのか。	3. シューベルトの口短調交響曲第一章は何を表現しようとしているのか	11. チャイコフスキーの交響曲第6番の中心はどこにあるのか。	4. シューベルト、シューマン、メンデルスゾーンは交響曲をどのように捉えたか。	12. 19世紀交響曲における「メロディーの力」	5. ベルリオーズの《幻想》とその影響	13. 19世紀交響曲の楽章構成と「スケルツォ」	6. ロマン主義思想の歴史の変遷をめぐって	14. マーラーの交響曲ーロマン主義最後の表現	7. 交響曲における民族主義ー北欧、東欧の諸作品	15. マーラーの交響曲第9番	8. ワーグナーのバイロイト楽劇の全ヨーロッパへの影響	
1. 古典派とロマン派はひとつの大きな時代である。では何が歴史的に変化したのか。	9. サンサーンスはなぜ交響曲にオルガンを取り入れたのか。																				
2. ロマン主義思想の始まりー文学上の初期ロマン派とその音楽思想	10. プラームスはなぜロマン派の中の古典主義といわれるのか。																				
3. シューベルトの口短調交響曲第一章は何を表現しようとしているのか	11. チャイコフスキーの交響曲第6番の中心はどこにあるのか。																				
4. シューベルト、シューマン、メンデルスゾーンは交響曲をどのように捉えたか。	12. 19世紀交響曲における「メロディーの力」																				
5. ベルリオーズの《幻想》とその影響	13. 19世紀交響曲の楽章構成と「スケルツォ」																				
6. ロマン主義思想の歴史の変遷をめぐって	14. マーラーの交響曲ーロマン主義最後の表現																				
7. 交響曲における民族主義ー北欧、東欧の諸作品	15. マーラーの交響曲第9番																				
8. ワーグナーのバイロイト楽劇の全ヨーロッパへの影響																					

教科 No.	6a025	授業科目	音楽社会学		単位数	2単位
担当教員	(休講)				開講学期	前期または後期
履修条件	なし		履修学年・専攻等	音楽学専攻は1回生以上, 他の専攻は2回生以上		
<h1 style="font-size: 2em;">今年度休講</h1>						

教科 No.	6a026	授業科目	西洋音楽史Ⅰ：古代ギリシア～ルネサンス		単位数	2単位																
担当教員	柿沼敏江（音楽研究室1）				開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1回生																		
<p><b>【授業目標】</b> 西洋音楽の流れを理解し、各時代の音楽様式、音楽実践のあり方を把握する。</p> <p><b>【授業概要】</b> 西洋音楽史の基礎的な知識を学び、各時代の音楽様式を実例をとおして把握することを目指す。教科書を参考にしながら、譜例をもとにして音楽を聴き、音楽を具体的に理解できるようにする。西洋音楽史Ⅰでは、古代ギリシアからルネサンス時代までを扱う。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 導入、古代ギリシア、ローマ</td> <td style="width: 50%;">9. フルゴーニュ楽派の音楽（デュファイ、パンショワ）</td> </tr> <tr> <td>2. 中世の聖歌（グレゴリオ聖歌）</td> <td>10. 中間試験</td> </tr> <tr> <td>3. 中世の音楽理論、世俗音楽</td> <td>11. ルネサンス</td> </tr> <tr> <td>4. 多声音楽の始まり（オルガヌム）</td> <td>12. ジョスカン・デ・プレ</td> </tr> <tr> <td>5. 13世紀の音楽（ノートルダム楽派）</td> <td>13. ルネサンスの器楽</td> </tr> <tr> <td>6. 14世紀のフランス（アルス・ノーヴァ）</td> <td>14. 宗教改革・反宗教改革（バレストリーナ）</td> </tr> <tr> <td>7. 14世紀のイタリア、フランス（トレチェント、アルス・スプティリオル）</td> <td>15. 期末試験</td> </tr> <tr> <td>8. 15世紀のイギリス（ダンスタブル）</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席、中間、期末試験（リスニング・テストを含む）、レポート（音楽学専攻のみ）</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 欠席しないこと。配布した譜例集を毎回授業に持ってくる。リスニング用のCD-Rを専攻ごとに配布するので、各自でダビングし、自宅で譜例をもとに繰り返し聴くこと。</p> <p><b>【教科書】</b> グラウト／バリスカ『新西洋音楽史（上）』（音楽之友社）</p> <p><b>【参考書等】</b> バリッシュ、オール著『音楽史、グレゴリオ聖歌からバッハまで』（音楽之友社）</p> <p style="text-align: center;">※備考 西洋音楽史Ⅱへと続く。</p>							1. 導入、古代ギリシア、ローマ	9. フルゴーニュ楽派の音楽（デュファイ、パンショワ）	2. 中世の聖歌（グレゴリオ聖歌）	10. 中間試験	3. 中世の音楽理論、世俗音楽	11. ルネサンス	4. 多声音楽の始まり（オルガヌム）	12. ジョスカン・デ・プレ	5. 13世紀の音楽（ノートルダム楽派）	13. ルネサンスの器楽	6. 14世紀のフランス（アルス・ノーヴァ）	14. 宗教改革・反宗教改革（バレストリーナ）	7. 14世紀のイタリア、フランス（トレチェント、アルス・スプティリオル）	15. 期末試験	8. 15世紀のイギリス（ダンスタブル）	
1. 導入、古代ギリシア、ローマ	9. フルゴーニュ楽派の音楽（デュファイ、パンショワ）																					
2. 中世の聖歌（グレゴリオ聖歌）	10. 中間試験																					
3. 中世の音楽理論、世俗音楽	11. ルネサンス																					
4. 多声音楽の始まり（オルガヌム）	12. ジョスカン・デ・プレ																					
5. 13世紀の音楽（ノートルダム楽派）	13. ルネサンスの器楽																					
6. 14世紀のフランス（アルス・ノーヴァ）	14. 宗教改革・反宗教改革（バレストリーナ）																					
7. 14世紀のイタリア、フランス（トレチェント、アルス・スプティリオル）	15. 期末試験																					
8. 15世紀のイギリス（ダンスタブル）																						

教科 No.	6a027	授業科目	西洋音楽史Ⅱ：バロック時代～ベートーヴェン	単位数	2単位																
担当教員	柿沼敏江（音楽研究室1）			開講学期	後期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	1回生																	
<p><b>【授業目標】</b> 西洋音楽の流れを理解し、各時代の音楽様式、音楽実践のあり方を把握する。</p> <p><b>【授業概要】</b> 西洋音楽の基礎的な知識を学び、各時代の音楽様式を実例をとおして把握することを目指す。教科書を参考にしながら、譜例をもとにして音楽を聴き、音楽を具体的に理解できるようにする。西洋音楽史Ⅱでは、バロック時代からベートーヴェンまでを扱う。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 初期バロック時代の音楽1</td> <td>9. 初期古典時代のソナタ、交響曲</td> </tr> <tr> <td>2. 初期バロック時代の音楽2</td> <td>10. 初期古典時代のオペラ1</td> </tr> <tr> <td>3. 17世紀におけるオペラと声楽1</td> <td>11. 初期古典時代のオペラ2</td> </tr> <tr> <td>4. 17世紀におけるオペラと声楽2</td> <td>12. 18世紀後期：ハイドン</td> </tr> <tr> <td>5. 後期バロック時代の器楽1</td> <td>13. 18世紀後期：モーツァルト</td> </tr> <tr> <td>6. 後期バロック時代の器楽2</td> <td>14. 18世紀後期：ベートーヴェン</td> </tr> <tr> <td>7. 18世紀前期の音楽1</td> <td>15. 期末試験</td> </tr> <tr> <td>8. 中間試験・18世紀前期の音楽2</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席、中間、期末試験（リスニング・テストを含む）、レポート（音楽学専攻のみ）</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 欠席しないこと。配布した譜例集を毎回授業に持ってくる。リスニング用のCD-Rを専攻ごとに配布するので、各自でダビングし、自宅で譜例をもとに繰り返し聴くこと。</p> <p><b>【教科書】</b> グラウト／バリスカ『新西洋音楽史（中）』（音楽之友社）</p> <p><b>【参考書等】</b> バリッシュ、オール著『音楽史、グレゴリオ聖歌からバッハまで』（音楽之友社）</p> <p>※備考 西洋音楽史Ⅲへと続く。</p>						1. 初期バロック時代の音楽1	9. 初期古典時代のソナタ、交響曲	2. 初期バロック時代の音楽2	10. 初期古典時代のオペラ1	3. 17世紀におけるオペラと声楽1	11. 初期古典時代のオペラ2	4. 17世紀におけるオペラと声楽2	12. 18世紀後期：ハイドン	5. 後期バロック時代の器楽1	13. 18世紀後期：モーツァルト	6. 後期バロック時代の器楽2	14. 18世紀後期：ベートーヴェン	7. 18世紀前期の音楽1	15. 期末試験	8. 中間試験・18世紀前期の音楽2	
1. 初期バロック時代の音楽1	9. 初期古典時代のソナタ、交響曲																				
2. 初期バロック時代の音楽2	10. 初期古典時代のオペラ1																				
3. 17世紀におけるオペラと声楽1	11. 初期古典時代のオペラ2																				
4. 17世紀におけるオペラと声楽2	12. 18世紀後期：ハイドン																				
5. 後期バロック時代の器楽1	13. 18世紀後期：モーツァルト																				
6. 後期バロック時代の器楽2	14. 18世紀後期：ベートーヴェン																				
7. 18世紀前期の音楽1	15. 期末試験																				
8. 中間試験・18世紀前期の音楽2																					

教科 No.	6a028	授業科目	西洋音楽史Ⅲ：ロマン派～現代	単位数	2単位																
担当教員	柿沼敏江（音楽研究室1）			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	2回生																	
<p><b>【授業目標】</b> 西洋音楽の流れを理解し、各時代の音楽様式、音楽実践のあり方を把握する。</p> <p><b>【授業概要】</b> 西洋音楽の基礎的な知識を学び、各時代の音楽様式を実例をとおして把握することを目指す。教科書を参考にしながら、譜例をもとにして音楽を聴き、音楽を具体的に理解できるようにする。西洋音楽史Ⅲでは、ロマン派から現代までを扱う。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 19世紀の管弦楽曲</td> <td>9. 20世紀ヨーロッパ（バルトークなど）</td> </tr> <tr> <td>2. 19世紀の独奏曲、室内楽</td> <td>10. 20世紀ヨーロッパ（ストラヴィンスキー、新古典主義）</td> </tr> <tr> <td>3. 19世紀の声楽曲、オペラ（ロッシーニ、ヴェルディ）</td> <td>11. 20世紀ヨーロッパにおける無調主義、表現主義</td> </tr> <tr> <td>4. 19世紀のオペラと音楽劇（ワーグナー）</td> <td>12. 音列主義、ポスト・ヴェーベルン派</td> </tr> <tr> <td>5. 1870年代から第1次大戦まで（ヴォルフ、マーラー、シュトラウス）</td> <td>13. セリー以後、クラスターなど</td> </tr> <tr> <td>6. 1870年代から第1次大戦まで（民族主義、東欧、北欧）</td> <td>14. 電子音楽・アメリカの潮流</td> </tr> <tr> <td>7. 中間試験</td> <td>15. 期末試験</td> </tr> <tr> <td>8. 印象主義（ドビュッシー、ラヴェルなど）</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席、中間、期末試験（リスニング・テストを含む）、レポート（音楽学専攻のみ）</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 欠席しないこと。配布した譜例集を毎回授業に持ってくる。リスニング用のCD-Rを専攻ごとに配布するので、各自でダビングし、自宅で譜例をもとに繰り返し聴くこと。</p> <p><b>【教科書】</b> グラウト／バリスカ『新西洋音楽史（下）』（音楽之友社）</p> <p><b>【参考書等】</b> 柴田南雄著『西洋音楽史4 印象派以後』（音楽之友社）、アレックス・ロス『20世紀を語る音楽』柿沼敏江・訳（みすず書房）</p> <p>※備考 できるだけ西洋音楽史Ⅰ、Ⅱが履修済みであることが望ましい。</p>						1. 19世紀の管弦楽曲	9. 20世紀ヨーロッパ（バルトークなど）	2. 19世紀の独奏曲、室内楽	10. 20世紀ヨーロッパ（ストラヴィンスキー、新古典主義）	3. 19世紀の声楽曲、オペラ（ロッシーニ、ヴェルディ）	11. 20世紀ヨーロッパにおける無調主義、表現主義	4. 19世紀のオペラと音楽劇（ワーグナー）	12. 音列主義、ポスト・ヴェーベルン派	5. 1870年代から第1次大戦まで（ヴォルフ、マーラー、シュトラウス）	13. セリー以後、クラスターなど	6. 1870年代から第1次大戦まで（民族主義、東欧、北欧）	14. 電子音楽・アメリカの潮流	7. 中間試験	15. 期末試験	8. 印象主義（ドビュッシー、ラヴェルなど）	
1. 19世紀の管弦楽曲	9. 20世紀ヨーロッパ（バルトークなど）																				
2. 19世紀の独奏曲、室内楽	10. 20世紀ヨーロッパ（ストラヴィンスキー、新古典主義）																				
3. 19世紀の声楽曲、オペラ（ロッシーニ、ヴェルディ）	11. 20世紀ヨーロッパにおける無調主義、表現主義																				
4. 19世紀のオペラと音楽劇（ワーグナー）	12. 音列主義、ポスト・ヴェーベルン派																				
5. 1870年代から第1次大戦まで（ヴォルフ、マーラー、シュトラウス）	13. セリー以後、クラスターなど																				
6. 1870年代から第1次大戦まで（民族主義、東欧、北欧）	14. 電子音楽・アメリカの潮流																				
7. 中間試験	15. 期末試験																				
8. 印象主義（ドビュッシー、ラヴェルなど）																					

教科 No.	6a029	授業科目	音楽音響学	単位数	2単位																
担当教員	津崎 実（音楽研究室4）			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	2回生																	
<p><b>【授業目標】</b> 音楽を媒介する「音」について物理的な側面からの理解を深めます。音は振動であり、振動が生じるために必要な物体の性質を理解して、楽器が今日の形になってきた理由を理解していきます。</p> <p><b>【授業概要】</b> 音楽には音がつきものです。音には物体の振動が空気を伝わって耳元に届くまでの物理的過程と、それが聴覚を通して人間に受容される知覚過程の2つの側面が存在します。音楽音響学ではこの前者を中心として勉強していきます。後期に開講される音楽心理学を学ぶ上で、音の物理的な性質を理解することはとても重要です。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 音楽音響学の立場</td> <td>9. 楽器のスペクトルとは</td> </tr> <tr> <td>2. 楽器の分類</td> <td>10. 音の伝播と伝達-減衰, 回折, 反射, 屈折-</td> </tr> <tr> <td>3. 楽器がなる仕組みの基本</td> <td>11. アナログとデジタル</td> </tr> <tr> <td>4. 物が振動するための条件</td> <td>12. 弦楽器の振動-弦の固有振動-</td> </tr> <tr> <td>5. 物の性質と出てくる音の関係</td> <td>13. 弦楽器の振動-弾弦楽器・打弦楽器・擦弦楽器-</td> </tr> <tr> <td>6. 周波数, 振幅, 周期, 波形</td> <td>14. 管楽器の振動-管の固有振動-</td> </tr> <tr> <td>7. 単振動とその組み合わせ-純音と複合音-</td> <td>15. 管楽器の振動-金管・木管-</td> </tr> <tr> <td>8. 共振とフィルタ</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 筆記試験, ならびに出席点</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 暗記ではなく、理解を目指して下さい。内容的には物理や数学の知識に関連したものとなりますが、戻込みしないこと。</p> <p><b>【教科書】</b> 特に指定はありません。</p> <p><b>【参考書等】</b> フレッチャー, ロッシング著, 岸他訳, 楽器の物理学, シュプリンガー・フェアラー東京 ;ISBN:4431709398 ; (2002)</p> <p>※備考 後期の音楽心理学はこの講義を受講したことを前提に進めます。</p>						1. 音楽音響学の立場	9. 楽器のスペクトルとは	2. 楽器の分類	10. 音の伝播と伝達-減衰, 回折, 反射, 屈折-	3. 楽器がなる仕組みの基本	11. アナログとデジタル	4. 物が振動するための条件	12. 弦楽器の振動-弦の固有振動-	5. 物の性質と出てくる音の関係	13. 弦楽器の振動-弾弦楽器・打弦楽器・擦弦楽器-	6. 周波数, 振幅, 周期, 波形	14. 管楽器の振動-管の固有振動-	7. 単振動とその組み合わせ-純音と複合音-	15. 管楽器の振動-金管・木管-	8. 共振とフィルタ	
1. 音楽音響学の立場	9. 楽器のスペクトルとは																				
2. 楽器の分類	10. 音の伝播と伝達-減衰, 回折, 反射, 屈折-																				
3. 楽器がなる仕組みの基本	11. アナログとデジタル																				
4. 物が振動するための条件	12. 弦楽器の振動-弦の固有振動-																				
5. 物の性質と出てくる音の関係	13. 弦楽器の振動-弾弦楽器・打弦楽器・擦弦楽器-																				
6. 周波数, 振幅, 周期, 波形	14. 管楽器の振動-管の固有振動-																				
7. 単振動とその組み合わせ-純音と複合音-	15. 管楽器の振動-金管・木管-																				
8. 共振とフィルタ																					

教科 No.	6a030	授業科目	音楽心理学	単位数	2単位																
担当教員	津崎 実（音楽研究室4）			開講学期	後期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	2回生																	
<p><b>【授業目標】</b> 音楽を媒介する音について心理的な側面からの理解を深めることを目指します。特に、聴覚の末梢系である蝸牛で生じている音信号から神経信号への変換の在り方に関して、音楽との関連において理解をしていきます。</p> <p><b>【授業概要】</b> 音楽に興味を持つ多くの人にとって「音」とは自分自身の主観的な体験の占める部分が主たるものだと思います。音楽心理学では主観的体験の背後で働いている心理過程の理解を目指します。但し、情緒や感情といった難しいテーマではなく、知覚を中心に情報処理の観点を導入して人間の音の受容過程に光を当てていきます。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 地学情報処理としての心理学 -一心ではなく脳-</td> <td>9. ピッチ, 音程, 音階 -調律による違い-</td> </tr> <tr> <td>2. 聴覚器の構造</td> <td>10. マスキング -パワースペクトルと臨界帯域-</td> </tr> <tr> <td>3. 聴覚系の機能 -空気の振動を神経信号へ変換-</td> <td>11. マスキング -音楽的協和と聴覚的協和, 聴覚フィルタとうなり-</td> </tr> <tr> <td>4. 聴覚系の機能 -蝸牛基底膜による周波数の場所的符号化-</td> <td>12. 音色 -その定義の不完全性・因子分析法と多次元尺度構成法-</td> </tr> <tr> <td>5. 聴覚系の機能 -外有毛細胞の働きによる非線形性-</td> <td>13. ラウドネス -非線形性・等ラウドネス曲線-</td> </tr> <tr> <td>6. 聴覚系の機能 -位相固定した神経発火による周期的符号化-</td> <td>14. 聴覚情景分析 -音脈分凝-</td> </tr> <tr> <td>7. ピッチ -時間説と場所説, ミッシングファンダメンタル-</td> <td>15. 聴覚情景分析 -群化と多義性-</td> </tr> <tr> <td>8. ピッチ -多次元性と無限音階-</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 筆記試験, ならびに出席点</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 先入観にとらわれず、主観的事柄を客観視する態度で臨むこと</p> <p><b>【教科書】</b> 特に指定はありません。</p> <p><b>【参考書等】</b> ムーア著, 大串監訳, 聴覚心理学概論, (1994), 誠信書房 乾編, 認知心理学 1「知覚と運動」, (1995) 東大出版会</p> <p>※備考 前期の音楽音響学を受講したことを前提に進めます。</p>						1. 地学情報処理としての心理学 -一心ではなく脳-	9. ピッチ, 音程, 音階 -調律による違い-	2. 聴覚器の構造	10. マスキング -パワースペクトルと臨界帯域-	3. 聴覚系の機能 -空気の振動を神経信号へ変換-	11. マスキング -音楽的協和と聴覚的協和, 聴覚フィルタとうなり-	4. 聴覚系の機能 -蝸牛基底膜による周波数の場所的符号化-	12. 音色 -その定義の不完全性・因子分析法と多次元尺度構成法-	5. 聴覚系の機能 -外有毛細胞の働きによる非線形性-	13. ラウドネス -非線形性・等ラウドネス曲線-	6. 聴覚系の機能 -位相固定した神経発火による周期的符号化-	14. 聴覚情景分析 -音脈分凝-	7. ピッチ -時間説と場所説, ミッシングファンダメンタル-	15. 聴覚情景分析 -群化と多義性-	8. ピッチ -多次元性と無限音階-	
1. 地学情報処理としての心理学 -一心ではなく脳-	9. ピッチ, 音程, 音階 -調律による違い-																				
2. 聴覚器の構造	10. マスキング -パワースペクトルと臨界帯域-																				
3. 聴覚系の機能 -空気の振動を神経信号へ変換-	11. マスキング -音楽的協和と聴覚的協和, 聴覚フィルタとうなり-																				
4. 聴覚系の機能 -蝸牛基底膜による周波数の場所的符号化-	12. 音色 -その定義の不完全性・因子分析法と多次元尺度構成法-																				
5. 聴覚系の機能 -外有毛細胞の働きによる非線形性-	13. ラウドネス -非線形性・等ラウドネス曲線-																				
6. 聴覚系の機能 -位相固定した神経発火による周期的符号化-	14. 聴覚情景分析 -音脈分凝-																				
7. ピッチ -時間説と場所説, ミッシングファンダメンタル-	15. 聴覚情景分析 -群化と多義性-																				
8. ピッチ -多次元性と無限音階-																					

教科 No.	6a031	授業科目	音楽学特別演習 a 1～a 4	単位数	各1単位
担当教員	龍村あや子（音楽研究室2）			開講学期	前期・後期
履修条件	4回生の先修科目：音楽学特別演習 a 1, a 2		履修学年・専攻等	音楽学専攻 3, 4回生	
<p><b>【授業目標】</b> 卒業研究の個人指導</p> <p><b>【授業概要】</b> 音楽学専攻の学部生を対象に、卒業研究に結びつく個人指導を行うとともに、音楽学の専門的知識を学ぶ。音楽美学・社会学関係、日本の音楽、グローバル化の音楽 状況などについての内容が中心となる。詳細は、学生と相談して決める。</p> <p><b>【評価方法】</b> 研究に関する態度、成果などを総合的に見て判断する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 積極的に授業に参加する。</p> <p><b>【教科書】</b> なし</p> <p><b>【参考書等】</b> 授業で適宜指示する。</p> <p>※備考 音楽学専攻2回生及び他専攻の学生の聴講も認める。 ※「音楽学演習 b 1・2」を参照</p>					

教科 No.	6a032	授業科目	音楽学特別演習 c 1～c 4	単位数	各1単位
担当教員	津崎 実（音楽研究室4）			開講学期	前期・後期
履修条件	なし		履修学年・専攻等	音楽学専攻 3, 4回生	
<p><b>【授業目標】</b> 音楽心理学に関するテーマで卒業論文を書くために必要な基礎知識、基礎技術の習得と、実際の卒業論文研究の実践を行います。</p> <p><b>【授業概要】</b> 音楽に対してどのような角度から心理学的にアプローチできるかを判断するための、心理学的に信頼性のある測定法を教授するとともに、本学の環境で実施可能な技術的制約を体得するための演習を行います。</p> <p><b>【評価方法】</b> 基本は出席点とし、それに加えて定期的なレポート提出を課す。それらの総合評価とする。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 心理実験の実施には勤勉さが求められるのでまず休まずに出席すること。単に文献を読むだけでなく、実験装置の取扱や実験用プログラムの作成も行っていく。</p> <p><b>【教科書】</b> なし</p> <p><b>【参考書等】</b> なし</p> <p>※備考 音楽学専攻2回生及び他専攻の学生の聴講も認める。 ※「音楽学演習 b 1・2」を参照</p>					

教科 No.	6a033	授業科目	音楽学特別演習 d 1～d 4	単位数	各1単位
担当教員	柿沼敏江（音楽研究室1）			開講学期	前期・後期
履修条件	4回生の先修科目：音楽学特別演習 d 1, d 2	履修学年・専攻等	音楽学専攻 3, 4回生		
<p><b>【授業目標】</b> 各自のテーマの専門的研究</p> <p><b>【授業概要】</b> 卒業論文を書くための基礎訓練。音楽学の専門的な研究のための方法論の確立。基本的にゼミ形式で行なうが、必要に応じて個人指導も含める。</p> <p><b>【評価方法】</b> 出席。授業参加。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 積極的に授業に参加しましょう。</p> <p><b>【教科書】</b> とくに指定しない。</p> <p><b>【参考書等】</b> なし</p> <p>※備考 音楽学専攻 2回生及び他専攻の学生の聴講も認める。 ※「音楽学演習 b 1・2」を参照</p>					

教科 No.	6a034	授業科目	指揮法（副科） 1	単位数	1単位																
担当教員	増井信貴（音楽棟204）			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	指揮専攻を除く全専攻3回生以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 音楽家として、理解しておかなければならない基本的な指揮法のテクニックと知識を習得する。</p> <p><b>【授業概要】</b> 指揮法1では&lt;基礎編&gt;として指揮者の必要性、技術と音楽性、そして指揮法の解説及び分類などについて考察する。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 指揮者の必要性</td> <td>9. テンポとリズムの指示法について</td> </tr> <tr> <td>2. 近代指揮者の性格</td> <td>10. 加速と減速ということについて</td> </tr> <tr> <td>3. 技術と音楽性</td> <td>11. 指揮棒の使用方法</td> </tr> <tr> <td>4. 指揮法の解説</td> <td>12. 指揮法に於ての手の位置の説明</td> </tr> <tr> <td>5. 指揮法の分類法</td> <td>13. 打法というテクニックの解説</td> </tr> <tr> <td>6. 間接運動について</td> <td>14. 1拍子の打法及び練習法</td> </tr> <tr> <td>7. 2拍子の指揮法</td> <td>15. 打法についての総合注意-前期試演会</td> </tr> <tr> <td>8. 3, 4拍子の指揮法</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席と授業中に行なう試演会、期末のテストによる。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 指揮法について興味をもつこと</p> <p><b>【教科書】</b> 齊藤秀雄「指揮法教程」（音楽之友社）</p> <p><b>【参考書等】</b> 授業の中で指示します。</p> <p>※備考 なし</p>						1. 指揮者の必要性	9. テンポとリズムの指示法について	2. 近代指揮者の性格	10. 加速と減速ということについて	3. 技術と音楽性	11. 指揮棒の使用方法	4. 指揮法の解説	12. 指揮法に於ての手の位置の説明	5. 指揮法の分類法	13. 打法というテクニックの解説	6. 間接運動について	14. 1拍子の打法及び練習法	7. 2拍子の指揮法	15. 打法についての総合注意-前期試演会	8. 3, 4拍子の指揮法	
1. 指揮者の必要性	9. テンポとリズムの指示法について																				
2. 近代指揮者の性格	10. 加速と減速ということについて																				
3. 技術と音楽性	11. 指揮棒の使用方法																				
4. 指揮法の解説	12. 指揮法に於ての手の位置の説明																				
5. 指揮法の分類法	13. 打法というテクニックの解説																				
6. 間接運動について	14. 1拍子の打法及び練習法																				
7. 2拍子の指揮法	15. 打法についての総合注意-前期試演会																				
8. 3, 4拍子の指揮法																					

教科 No.	6a035	授業科目	指揮法（副科） 2	単位数	1単位																
担当教員	増井信貴（音楽棟204）			開講学期	後期																
履修条件	先修科目：指揮法（副科） 1		履修学年・専攻等	指揮専攻を除く全専攻3回生以上																	
<p><b>【授業目標】</b> 音楽家として、習得しておかなければならない指揮法を実習する。</p> <p><b>【授業概要】</b> 指揮法2では&lt;応用編&gt;として指揮実習を通して、技術と音楽性について学び、簡単な曲を指揮出来るようにする。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 直接運動について</td> <td>9. // 5番 //</td> </tr> <tr> <td>2. 平均運動について</td> <td>10. // 6, 7番 //</td> </tr> <tr> <td>3. 特殊な運動</td> <td>11. // 8番 //</td> </tr> <tr> <td>4. 指揮法での表現</td> <td>12. フルツ打法について</td> </tr> <tr> <td>5. 練習曲1番の実習 中間予備運動について</td> <td>13. ベートーヴェンを指揮するには？</td> </tr> <tr> <td>6. 練習曲2番の実習 分割法, rit (リット) の指揮法</td> <td>14. ヨハン・シュトラウスの曲を指揮するには？</td> </tr> <tr> <td>7. // 3番 //</td> <td>15. 総まとめ, 現代曲の指揮法-後期試演会</td> </tr> <tr> <td>8. // 4番 //</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 出席と授業中に行なう試演会、期末のテストによる。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 積極的に実習すること</p> <p><b>【教科書】</b> 齊藤秀雄「指揮法教程」（音楽之友社）</p> <p><b>【参考書等】</b> 授業の中で指示します。</p> <p>※備考 なし</p>						1. 直接運動について	9. // 5番 //	2. 平均運動について	10. // 6, 7番 //	3. 特殊な運動	11. // 8番 //	4. 指揮法での表現	12. フルツ打法について	5. 練習曲1番の実習 中間予備運動について	13. ベートーヴェンを指揮するには？	6. 練習曲2番の実習 分割法, rit (リット) の指揮法	14. ヨハン・シュトラウスの曲を指揮するには？	7. // 3番 //	15. 総まとめ, 現代曲の指揮法-後期試演会	8. // 4番 //	
1. 直接運動について	9. // 5番 //																				
2. 平均運動について	10. // 6, 7番 //																				
3. 特殊な運動	11. // 8番 //																				
4. 指揮法での表現	12. フルツ打法について																				
5. 練習曲1番の実習 中間予備運動について	13. ベートーヴェンを指揮するには？																				
6. 練習曲2番の実習 分割法, rit (リット) の指揮法	14. ヨハン・シュトラウスの曲を指揮するには？																				
7. // 3番 //	15. 総まとめ, 現代曲の指揮法-後期試演会																				
8. // 4番 //																					

教科 No.	6a036	授業科目	器楽合奏 1：リコーダーの基礎と合奏	単位数	1単位																								
担当教員	秋山 滋（非常勤）			開講学期	前期																								
履修条件	なし		履修学年・専攻等	弦楽、管・打楽を除く全専攻2回生以上																									
<p><b>【授業目標】</b> リコーダーの基礎と応用</p> <p><b>【授業概要】</b> リコーダーを通じて様々な楽曲を演奏し、器楽に於る基本的な合奏形態を学ぶ。また音楽史上リコーダーが果たしてきた役割も理解し、この楽器の重要性を知る。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業内容説明等</td> <td>9. "</td> <td>(Ⅲ)</td> </tr> <tr> <td>2. リコーダーの歴史、音楽史、楽器変遷史について</td> <td>10. "</td> <td>(Ⅳ)</td> </tr> <tr> <td>3. 奏法の基礎と応用</td> <td>11. "</td> <td>(Ⅴ)</td> </tr> <tr> <td>4. アルトリコーダー奏法（Ⅰ）</td> <td>12. "</td> <td>(Ⅵ)</td> </tr> <tr> <td>5. "（Ⅱ）</td> <td>13. "</td> <td>(Ⅶ)</td> </tr> <tr> <td>6. "（Ⅲ）</td> <td>14. "</td> <td>(Ⅷ)</td> </tr> <tr> <td>7. アルトリコーダーによる合奏（Ⅰ）</td> <td>15. 授業内テスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. "（Ⅱ）</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 授業内テスト及び出席状況で評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> リコーダーの運指を理解している事が望ましい。</p> <p><b>【教科書】</b> なし</p> <p><b>【参考書等】</b> 楽譜、資料を配布する。バロック式運指によるソプラノ、アルトの各リコーダーを各自用意すること。</p>						1. 授業内容説明等	9. "	(Ⅲ)	2. リコーダーの歴史、音楽史、楽器変遷史について	10. "	(Ⅳ)	3. 奏法の基礎と応用	11. "	(Ⅴ)	4. アルトリコーダー奏法（Ⅰ）	12. "	(Ⅵ)	5. "（Ⅱ）	13. "	(Ⅶ)	6. "（Ⅲ）	14. "	(Ⅷ)	7. アルトリコーダーによる合奏（Ⅰ）	15. 授業内テスト		8. "（Ⅱ）		
1. 授業内容説明等	9. "	(Ⅲ)																											
2. リコーダーの歴史、音楽史、楽器変遷史について	10. "	(Ⅳ)																											
3. 奏法の基礎と応用	11. "	(Ⅴ)																											
4. アルトリコーダー奏法（Ⅰ）	12. "	(Ⅵ)																											
5. "（Ⅱ）	13. "	(Ⅶ)																											
6. "（Ⅲ）	14. "	(Ⅷ)																											
7. アルトリコーダーによる合奏（Ⅰ）	15. 授業内テスト																												
8. "（Ⅱ）																													

教科 No.	6a037	授業科目	器楽合奏 2：リコーダーアンサンブル	単位数	1単位																								
担当教員	秋山 滋（非常勤）			開講学期	後期																								
履修条件	先修科目：器楽合奏 1		履修学年・専攻等	弦楽、管・打楽を除く全専攻2回生以上																									
<p><b>【授業目標】</b> リコーダー合奏の基礎と応用</p> <p><b>【授業概要】</b> 四声体による合奏を通し、ルネサンスの楽曲から現代までの音楽を演奏し、器楽合奏の本質にせまると共に、リコーダー及びリコーダーアンサンブルの指導法を学ぶ。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. ソプラノリコーダー奏法（Ⅰ）</td> <td>9. "</td> <td>(Ⅶ)</td> </tr> <tr> <td>2. "（Ⅱ）</td> <td>10. "</td> <td>(Ⅷ)</td> </tr> <tr> <td>3. ソプラノ、アルト、テナー、バスリコーダーを使用し四声部による合奏（Ⅰ）</td> <td>11. "</td> <td>(Ⅸ)</td> </tr> <tr> <td>4. "（Ⅱ）</td> <td>12. "</td> <td>(Ⅹ)</td> </tr> <tr> <td>5. "（Ⅲ）</td> <td>13. "</td> <td>(Ⅺ)</td> </tr> <tr> <td>6. "（Ⅳ）</td> <td>14. リコーダー音楽鑑賞</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. "（Ⅴ）</td> <td>15. 授業内テスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. "（Ⅵ）</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 授業内テスト及び出席状況で評価する。</p> <p><b>【履修上の注意】</b> リコーダーの運指を理解している事が望ましい。</p> <p><b>【教科書】</b> なし</p> <p><b>【参考書等】</b> 楽譜、資料を配布する。バロック式運指によるソプラノ、アルトの各リコーダーを各自用意すること。</p>						1. ソプラノリコーダー奏法（Ⅰ）	9. "	(Ⅶ)	2. "（Ⅱ）	10. "	(Ⅷ)	3. ソプラノ、アルト、テナー、バスリコーダーを使用し四声部による合奏（Ⅰ）	11. "	(Ⅸ)	4. "（Ⅱ）	12. "	(Ⅹ)	5. "（Ⅲ）	13. "	(Ⅺ)	6. "（Ⅳ）	14. リコーダー音楽鑑賞		7. "（Ⅴ）	15. 授業内テスト		8. "（Ⅵ）		
1. ソプラノリコーダー奏法（Ⅰ）	9. "	(Ⅶ)																											
2. "（Ⅱ）	10. "	(Ⅷ)																											
3. ソプラノ、アルト、テナー、バスリコーダーを使用し四声部による合奏（Ⅰ）	11. "	(Ⅸ)																											
4. "（Ⅱ）	12. "	(Ⅹ)																											
5. "（Ⅲ）	13. "	(Ⅺ)																											
6. "（Ⅳ）	14. リコーダー音楽鑑賞																												
7. "（Ⅴ）	15. 授業内テスト																												
8. "（Ⅵ）																													

教科 No.	6a038	授業科目	バレエ 1	単位数	1単位																
担当教員	真木ひろみ（非常勤）			開講学期	前期																
履修条件	なし		履修学年・専攻等	声楽専攻 1 回生																	
<p><b>【授業目標】</b> クラシックバレエの基礎、バーでの練習を重視し演習し正しい立ち方・姿勢・ボディーラインの矯正、均衡のとれた体づくりを行い声量豊かな発声につながる基本姿勢を会得、身体表現の基本を培う。</p> <p><b>【授業概要】</b> バーを持つでの練習、バーを離れての練習を反復し、ボディー軸を会得し瞬発力、柔軟性を習得する。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 基本姿勢：正しい姿勢（骨盤の角度）</td> <td>9. (5) パットマン・デブロッペ</td> </tr> <tr> <td>2. 基本姿勢：初心者のための両足の開き方</td> <td>10. (6) グランパットマン</td> </tr> <tr> <td>3. 基本姿勢：筋肉調整の中心</td> <td>11. (7) リンパリング</td> </tr> <tr> <td>4. バーでの練習（エグゼルス・ア・ラ・パール）</td> <td>12. バーを離れて（エグゼルス・オ・ミリュール）</td> </tr> <tr> <td>5. (1) プリエ（第1ポジション～第5ポジション）</td> <td>13. (1) ボールド・ブラ</td> </tr> <tr> <td>6. (2) パットマン・タンデュ</td> <td>14. (2) パト動きのつなぎ方</td> </tr> <tr> <td>7. (3) パットマン・デガージュ</td> <td>15. (3) ワルツ</td> </tr> <tr> <td>8. (4) ロンド・ジャンプ・ア・テール</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 平常点、出席を重視</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 動きやすい服装、バレエシューズ</p> <p><b>【教科書】</b> なし</p> <p><b>【参考書等】</b> なし</p>						1. 基本姿勢：正しい姿勢（骨盤の角度）	9. (5) パットマン・デブロッペ	2. 基本姿勢：初心者のための両足の開き方	10. (6) グランパットマン	3. 基本姿勢：筋肉調整の中心	11. (7) リンパリング	4. バーでの練習（エグゼルス・ア・ラ・パール）	12. バーを離れて（エグゼルス・オ・ミリュール）	5. (1) プリエ（第1ポジション～第5ポジション）	13. (1) ボールド・ブラ	6. (2) パットマン・タンデュ	14. (2) パト動きのつなぎ方	7. (3) パットマン・デガージュ	15. (3) ワルツ	8. (4) ロンド・ジャンプ・ア・テール	
1. 基本姿勢：正しい姿勢（骨盤の角度）	9. (5) パットマン・デブロッペ																				
2. 基本姿勢：初心者のための両足の開き方	10. (6) グランパットマン																				
3. 基本姿勢：筋肉調整の中心	11. (7) リンパリング																				
4. バーでの練習（エグゼルス・ア・ラ・パール）	12. バーを離れて（エグゼルス・オ・ミリュール）																				
5. (1) プリエ（第1ポジション～第5ポジション）	13. (1) ボールド・ブラ																				
6. (2) パットマン・タンデュ	14. (2) パト動きのつなぎ方																				
7. (3) パットマン・デガージュ	15. (3) ワルツ																				
8. (4) ロンド・ジャンプ・ア・テール																					

教科 No.	6a039	授業科目	バレエ 2	単位数	1単位																
担当教員	真木ひろみ（非常勤）			開講学期	後期																
履修条件	先修科目：バレエ 1		履修学年・専攻等	声楽専攻 1 回生																	
<p><b>【授業目標】</b> 前期で習得したクラシックバレエの基礎をもとに自然な表現を主眼に柔軟性・リズム感を培いボディーランゲージを高める。舞踊を通じての芸術性を培う。</p> <p><b>【授業概要】</b> 五感の発達とともに感性豊かな表現、正しい姿勢を作る。ボディーラインの矯正、調和のとれた表現豊かな個性を研ぎ、人に訴える内容や感性・情操豊かな面を培う。</p> <p><b>【授業内容】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. (1) 基本姿勢と正しい立ち方</td> <td>9. D 聞く</td> </tr> <tr> <td>2. (2) 足のポジション、腕のポジション</td> <td>10. E 座る</td> </tr> <tr> <td>3. (3) 1 と 2 の応用</td> <td>11. F 立つ</td> </tr> <tr> <td>4. (4) 基礎体力作り、瞬発力と柔軟性</td> <td>12. G 方向を変える（舞台の方向 1～8。上手・下手）</td> </tr> <tr> <td>5. (5) エグゼルス・オ・ミリュール（コンビネーション＝パの組み合わせ＝踊ってみよう）</td> <td>13. H 立ちどまり、あらゆる方向に移動</td> </tr> <tr> <td>6. A 歩く（前後左右）</td> <td>14. I 出入り</td> </tr> <tr> <td>7. B 走る（ 〃 ）</td> <td>15. (6) 上記段階を経て感情移入を伴う</td> </tr> <tr> <td>8. C 見る（ 〃 ）</td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【評価方法】</b> 平常点、出席を重視</p> <p><b>【履修上の注意】</b> 動きやすい服装、バレエシューズ</p> <p><b>【教科書】</b> なし</p> <p><b>【参考書等】</b> なし</p>						1. (1) 基本姿勢と正しい立ち方	9. D 聞く	2. (2) 足のポジション、腕のポジション	10. E 座る	3. (3) 1 と 2 の応用	11. F 立つ	4. (4) 基礎体力作り、瞬発力と柔軟性	12. G 方向を変える（舞台の方向 1～8。上手・下手）	5. (5) エグゼルス・オ・ミリュール（コンビネーション＝パの組み合わせ＝踊ってみよう）	13. H 立ちどまり、あらゆる方向に移動	6. A 歩く（前後左右）	14. I 出入り	7. B 走る（ 〃 ）	15. (6) 上記段階を経て感情移入を伴う	8. C 見る（ 〃 ）	
1. (1) 基本姿勢と正しい立ち方	9. D 聞く																				
2. (2) 足のポジション、腕のポジション	10. E 座る																				
3. (3) 1 と 2 の応用	11. F 立つ																				
4. (4) 基礎体力作り、瞬発力と柔軟性	12. G 方向を変える（舞台の方向 1～8。上手・下手）																				
5. (5) エグゼルス・オ・ミリュール（コンビネーション＝パの組み合わせ＝踊ってみよう）	13. H 立ちどまり、あらゆる方向に移動																				
6. A 歩く（前後左右）	14. I 出入り																				
7. B 走る（ 〃 ）	15. (6) 上記段階を経て感情移入を伴う																				
8. C 見る（ 〃 ）																					